カタチには理由(ワケ)がある(73)

Shape follows
Function & Taste

～モスキート(Mosquito)PR Mk.XVI

二段過給器付マーリンナセルとバブルキャノピー(前者 RAF 博物館、後者ポールガーバー施設・いずれも撮影筆者)

モスキートは、英国空軍が第二次世界大戦で使用した木製の傑作機で、爆撃機、戦闘爆撃機、そして偵察機として使われました。上の機体は、PR(Photo Reconnaissance)型、つまり写真偵察機型で、爆撃機型をベースにしているため、機首先端が透明でキャノピー前面に傾斜が付いています。また、このMk.XVI というタイプは、キャノピー左右側面が膨らみ、天井部分に紡錘型の膨らみがあるのも特徴です。この天井の膨らみは結構大きく、後部銃座を有さない同機は、航法士が頭を突っ込んで後方から接近する敵機を警戒するために設けられたと思われます。また、このタイプは、二段過給器を付けたマーリン 73 エンジンを搭載しているため、外観的にはスピナー下に新たな空気取り入れ口が大きく開口しています。木製の同機は機体表面に布を張り付け樹脂を含侵させて補強しており、与圧された機内の気密性を十分に維持できました。この表面の補強が隙間を塞いで、高空でも機内は暖かで、隙間風が入り放題だったボーファイターなどと比べて、大きな相違点だったようです。

【模型について】

タミヤ(Tamiya)の 1/72 のモスキート B Mk.VI をベースに、パラゴンデザイン(Paragon Design)の二段過給器付マーリンエンジンの改造パーツを使用しています。また、上述した天井と左右側面の膨らみは塩ビ板をヒートプレスで自作して改造しています。

（中川裕幸　2021 年 5 月・2023 年 8 月改定）